

03

町民憲章

わたしたちは、高麗、鷹取の山なみや、こゆるぎの浜に象徴される美しい自然と、由緒ある歴史・文化に恵まれた大磯の地を愛し、誇りとし、更に住みよいまちづくりを目指して、ここに町民憲章を定めます。

- 一、恵まれた自然と伝統を守り、文化の向上に努め、豊かなまちにしましょう。
- 一、公德心と心のふれあいをたかめ、世界に誇れる美しいまちにしましょう。
- 一、心とからだをきたえ、健康で働くことを喜びあえる明るいまちにしましょう。

04

町の沿革

大磯町は、相模湾や高麗山、鷹取山などの豊かな自然が暮らしの場に近接しており、また、長い時間をかけて郷土が培ってきた伝統や文化が大切に受け継がれることによって、自然的、歴史的、文化的に魅力のある町として発展してきました。

明治18年(1885年)には、初代陸軍軍医総監を務めた松本順が、西洋医学における先端医療の一つとして、「海水浴」を推奨し、照ヶ崎海岸に海水浴場が開設されました。

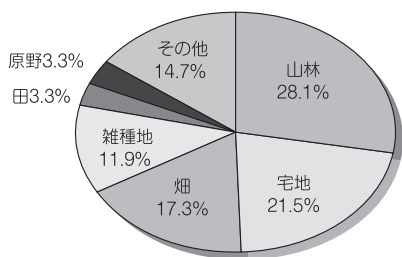
また、明治20年(1887年)には、大磯駅が開業しました。当初は平塚から国府津までの間に駅は必要ない、という計画でしたが、松本順が初代内閣総理大臣・伊藤博文に提案し、大磯駅が誕生。大磯駅開業によって海水浴客は増え続け、政財界の重鎮たちの別荘が数多く建築され、保養地としての大磯の名が全国に広まりました。

明治22年(1889年)4月の町村制の施行で、大磯駅、高麗村、東小磯村、西小磯村を併せて大磯町を編成。昭和29年(1954年)12月に町村合併促進法により国府町と合併し、現大磯町の第一歩を踏み出しました。

以来、歴史・文化・伝統を大切に、恵まれた自然環境に配慮しながら、調和のとれた住みよいまちづくりを進めています。

05

地目別面積の割合



01

町章とシンボルマーク

大磯の「大」を三つ組み合わせ、それぞれ「飛躍・発展」、「勤労」、「友愛」を意味づけ、町の発展を抽象化したもので昭和39年8月15日に制定されました。



「高麗山と鷹取山の豊かな自然と、目の前に広がるこゆるぎの浜に抱かれて発展する町」をデザインしているもので平成元年5月29日に制定されました。

02

町の位置



	経度	緯度	東西距離	南北距離
位置	東経139°18'	北緯35°18'	約7.6km	約4.1km

《資料:都市計画課》※経度・緯度は大磯町役場の位置

おもなできごと

(縄文時代早期)

大磯の草分けとなった人たちが住み始めたと思われる(万石遺跡)。

天武

四年(六七五) 相武国造、師長国造が合併して相模の国となる。

霊亀

二年(七一六) 高麗人一、七九九人を武蔵国に移し、高麗郡を置く。

養老のころ

(七一七〜七二四) 相模国の国府祭が始まる。

天平

七年(七三五) 余綾郡と、その郡役所が国府地区に置かれる。

平安中期

寺坂、王福寺の木造薬師如来坐像がつくられた。

天養〜保元

(一一四四〜一一五八) 相模国の国府が余綾郡に移る。

建久

四年(一一九三) 曾我兄弟が富士の裾野で、父の敵工藤祐経を討つ。

永祿

四年(一五六二) 上杉謙信が小田原に攻めるにあたって、高麗寺城を攻め、陣をとる。

慶長

六年(一六〇二) 東海道に宿駅の制が定められ、一里塚ができる。

寛文

四年(一六六四) 崇雪が鳴立庵を建てる。

06

生活

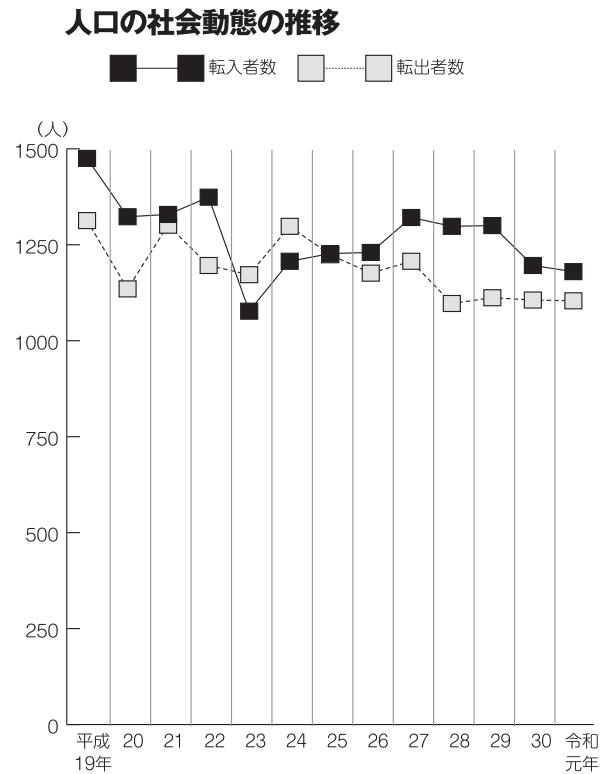
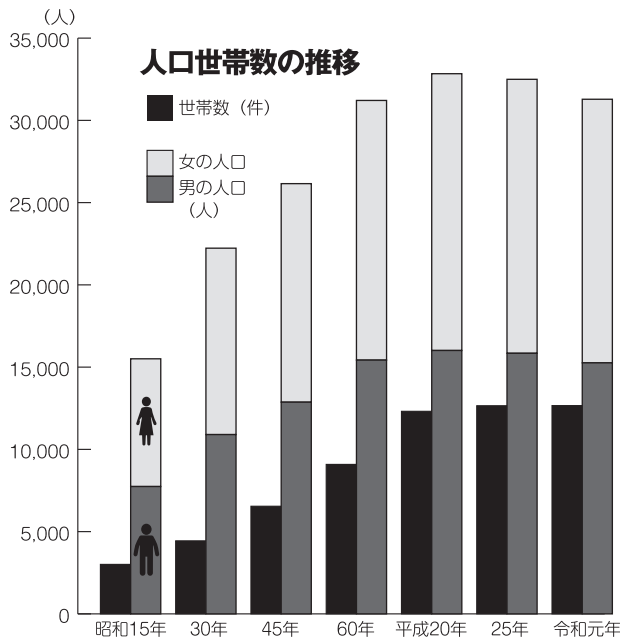
出生 151 人	死亡 388 人	転入 1,168 人	転出 1,139 人	世帯数 12,661 世帯
結婚 287 組	ごみ収集量 8,713 t	軽自動車 6,250 台	町税 5,144 百万円	(令和元年度)



07 大磯町の人口は **31,284**人

(令和元年10月1日現在) 15,260人 16,024人

大磯町の人口



1世帯当たり人員

昭和15年 **5.15**人 → 令和元年 **2.47**人

元禄 八年(一六九五) 大淀三千風が鳴立庵主一世として入庵。

享保 十七年(一七三二) 享保の大飢饉。国府新宿も凶作にみまわれる。

宝暦 十二年(一七六二) 大磯宿、神明町から鳴立沢まで消失する大火。

天保 七年(一八三六) 天保の飢饉で川崎屋などが打ちこわされる。

文久 一年(一八六一) 小野懐之が私塾「乗塾館」を開館。このころ大磯に私塾、寺子屋多し。

明治 四年(一八七二) 渡辺慶次郎(寺坂の人)が日本最初の落花生を栽培する。

六年(一八七三) 学制発布により大磯小学校の前身「乗塾館」、国府小学校の前身「思文館」を開校。大磯郵便取扱所が開設される。

七年(一八七四) 金目村に捕亡出張所(大磯警察署の前身)を置き、大磯駅に分派捕亡所を置く。

十一年(一八七八) 大住・淘綾高郡役所を大磯駅に置く。

十八年(一八八五) 松本順、日本最初の海水浴場を開く。

十九年(一八八六) 添田辰五郎(国府本郷の人)がサフランを初めて栽培。

二十年(一八八七) 東海道本線、横浜・国府津間が開通、大磯駅もできる。

二十二年(一八八九) 町村制が施行され、大磯町、国府村が誕生。

二十三年(一九〇〇) 大磯町が大火にみまわれる。中川良知町長は、南下町の住民を長者町に移し、町の整備をはかる。

住みやすい町
大磯!

平成31年3月発行

持ち家比率 2013

2位

(1位 葉山町)
平成25年住宅・土地統計調査

人口の社会増減率 2017

4位 0.60

1位 開成町 1.11
2位 箱根町 1.00
3位 川崎市 0.72

平均寿命 2015 男性

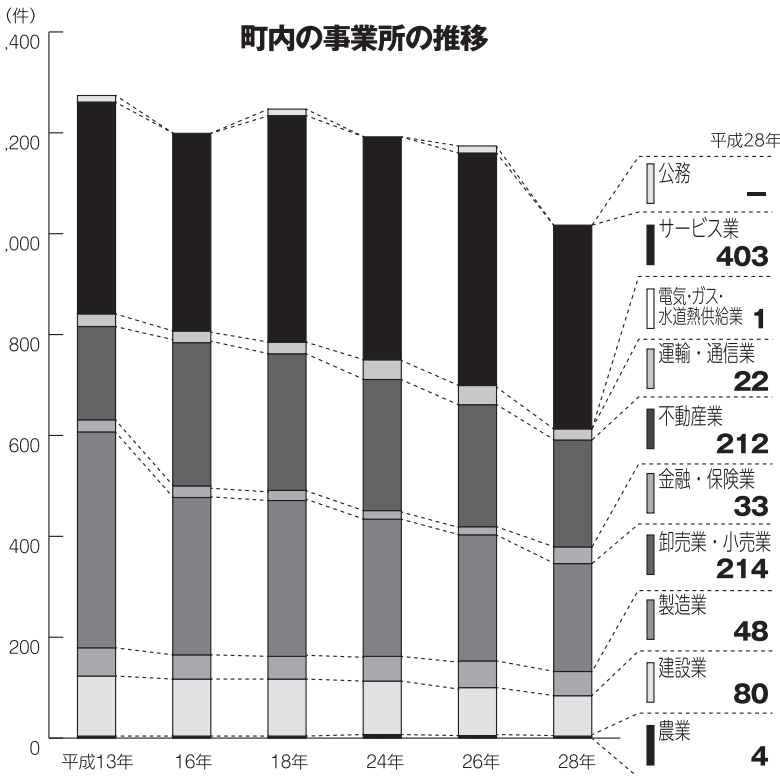
4位 81.9

1 鎌倉市・開成町 82.1
3 海老名市 82.0
4 藤沢市・茅ヶ崎市・大磯町 81.9
(※女性は87.4で8位)

元気なまち
大磯!

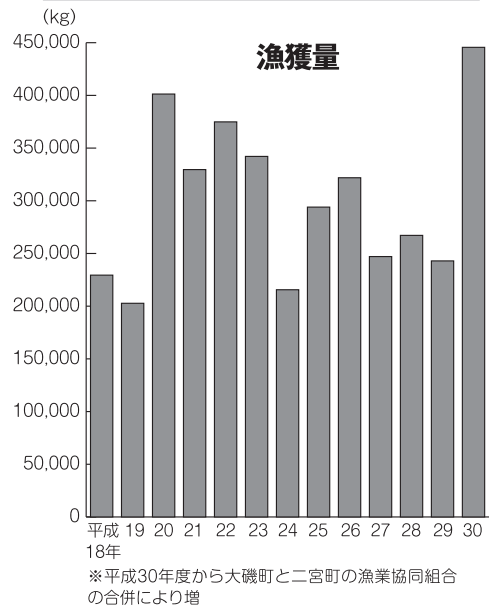
11

町内の事業所



09

漁業



10

農業

総農家数
昭和55年 **523戸** → 平成27年 **149戸**

昭和

二十九年(一九九六) 大住・洵綾両郡を合併して中郡と改め、郡役所を大磯町に置く。
伊藤博文、大磯町に滄浪閣を建て、町民となる。
三十三年(一九〇〇) 大磯町に電気供給開始。
三十五年(一九〇二) 大磯郵便局、電話交換業務の取扱いを開始(加入者一〇戸)。
三十六年(一九〇三) 大磯漁業組合が設立される(現在の大磯二宮漁業協同組合)。
四十年(一九〇七) 国府村に電気供給開始。

大正

十二年(一九二二) 関東大震災(死傷行方不明約二四五人、家屋全半壊約一〇二五戸)。
十五年(一九二六) 大磯小学校に大磯幼稚園を併設。中郡役所廃止。
十九年(一九三四) 県営水道、大磯の一部に給水開始。
二十一年(一九三六) 照ヶ崎海岸にプール完成。
二十五年(一九四〇) 国府郵便局開局。
三十年(一九四五) 米軍機の空襲を受け、寺坂地区の大半を焼失。
三十二年(一九四七) エリザベス・サンダース・ホーム設立。
三十三年(一九四八) 町立図書館開館。
三十七年(一九五二) 国府村は国府町となる。教育委員会設置。
三十九年(一九五四) 大磯カーニバル始まる。
大磯町と国府町が合併、大磯町となる。
三十九年(一九五五) 町立国府保育園開園。
四十一年(一九五七) 二宮英雄選手がメルボルンオリンピックに出場。
大磯文化史発刊。
三十四年(一九五九) 町立国府幼稚園開園。
三十五年(一九六〇) 大磯町商工会が設立される。
三十八年(一九六三) 大磯バイパス完成。
三十九年(一九六四) 大磯ホテルが東京オリンピックのヨット選手村となる。

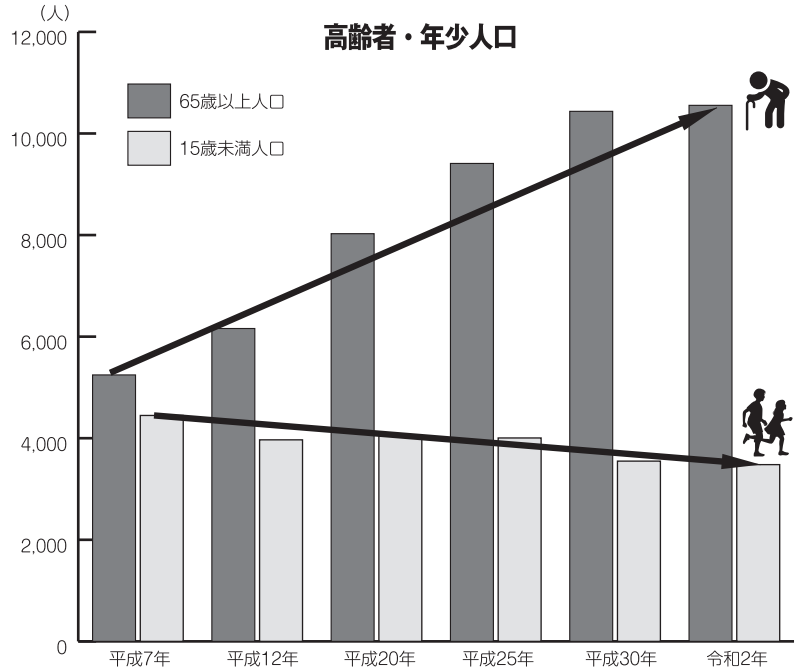
保育園等入所状況 3園

220人

認定子ども園入所状況 2園

180人

(令和元年度)



幼稚園 3園

272人

小学校 4校

1,642人

中学校 4校

823人

県立高校 1校

824人

蔵書冊数

232,774冊

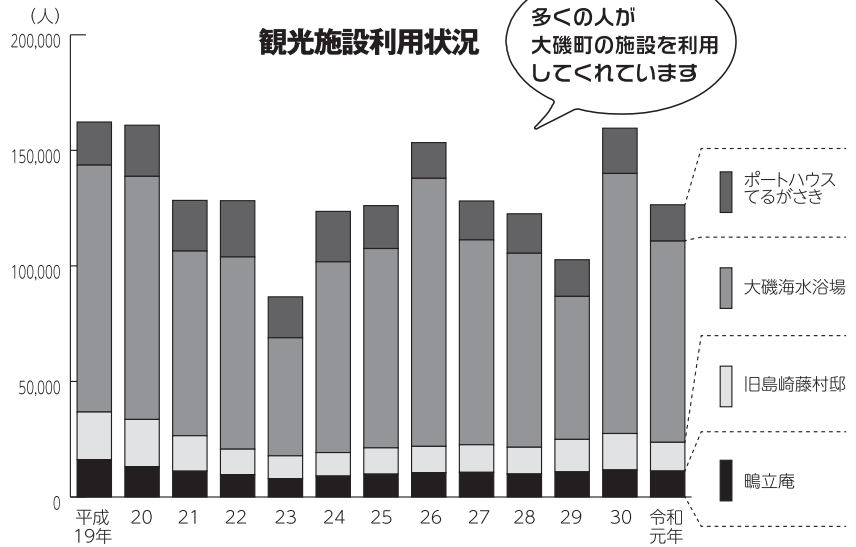
図書貸出し

158,118冊
住民一人当たり5.1冊

生涯学習施設利用状況

郷土資料館 旧吉田茂邸 生涯学習館
28,900人 62,698人 18,673人

(令和元年度)



- 町章制定。
- 四十年(一九六五) 吉田茂元首相、安田靉彦画伯に名誉町民の称号を贈呈。
- 四十一年(一九六六) 西湘バイパス大磯地区(大磯起点)葛川インターチェンジが開通。
- 四十三年(一九六八) 消防署開署。
- 米国オハイオ州デイトン市と姉妹都市を締結。
- 四十四年(一九六九) 厚木・小田原バイパスが開通し、大磯インターができる。
- 町立大磯保育園開園。
- 四十五年(一九七〇) 曾根田恭男前町長に名誉町民の称号を贈呈。
- 四十六年(一九七一) 町役場新庁舎が現在地に完成。高麗に相模貨物駅ができる。
- 四十八年(一九七三) 町立小磯幼稚園開園。長野県小諸市・山口村と文学姉妹都市を締結。大磯港完成。
- 四十九年(一九七四) 町立月京幼稚園開園。消防庁舎・武道館が完成。
- 五十年(一九七五) 町の木「くろまつ」「ヤギんか」に決定。
- 故島崎藤村、高橋誠一郎氏に名誉町民の称号を贈呈。
- 生沢プール完成。
- 五十三年(一九七八) 環境美化センター「ヤギんか園」完成。
- 国府支所新庁舎完成。
- 五十四年(一九七九) 休日の急患診療開始。町立図書館国府分館開館。
- 町立老人福祉センター開所。
- 五十五年(一九八〇) 住居表示を実施。町立国府中学校新校舎現在地に完成。
- 故澤田美喜女史に名誉町民の称号を贈呈。
- 五十六年(一九八一) 町民憲章制定。大磯町商工会館が完成。駅前自転車駐車場オープン。
- 五十七年(一九八二) 保健センター完成。米国ウィスコンシン州ラシントン市と姉妹都市を締結。
- 五十八年(一九八三) 町立図書館が現在地に完成。
- 五十九年(一九八四) 町立ふれあい会館開館。海水浴場開設一〇〇年記念式典を開催。町の鳥「かもめ」に決定。

14

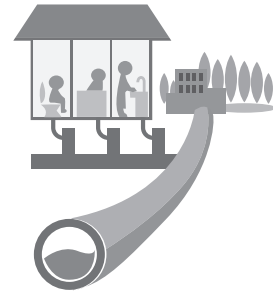
上・下水道

上水道 (令和元年度)

給水人口 31,099人
給水量 3,262,349m³

下水道 (令和元年度)

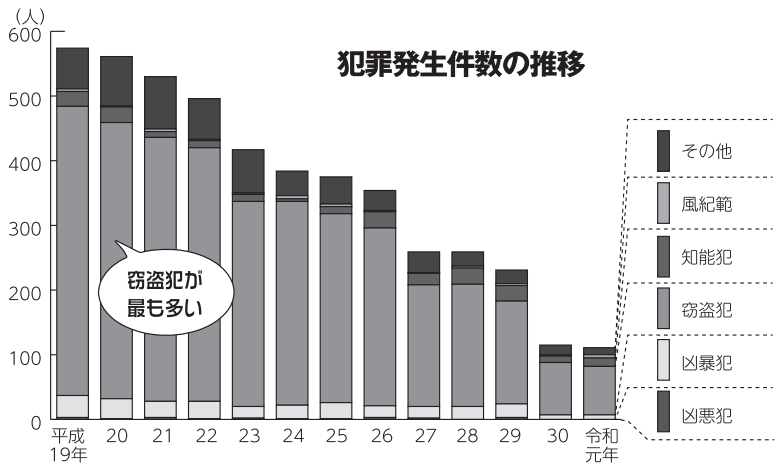
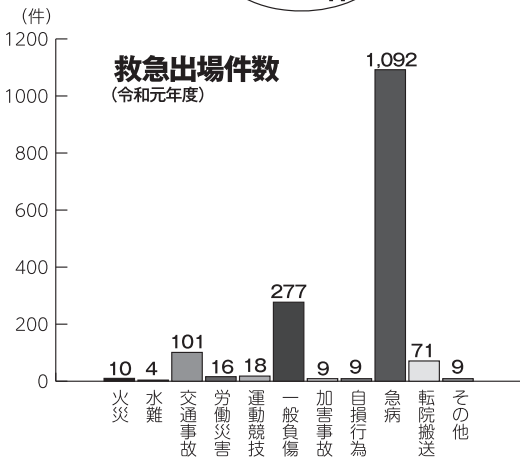
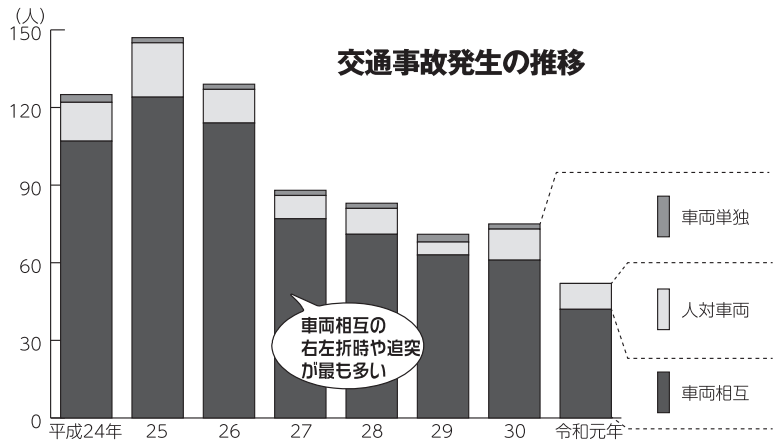
処理区域面積 449ha
整備区域面積 472ha



15

運輸・交通・災害

大磯駅 1日平均乗車人員 8,053人	駅前自転車駐車場 平均随時利用者数 (1日あたり) 193.8人
犯罪件数 111件	火災件数 12件
救急出場状況 1,616件	(令和元年度) 1日に平均すると 4.4件



六十年(一九八五) 町立国府保育園現在地に完成。
大磯・二宮トンネル開通。
六十一年(一九八六) 町立大磯小学校新校舎が完成、オーブンスペース方式を取り入れる。
六十二年(一九八七) 鳴立庵復元工事完成。
平和宣言記念碑完成。
六十三年(一九八八) 郷土資料館開館。

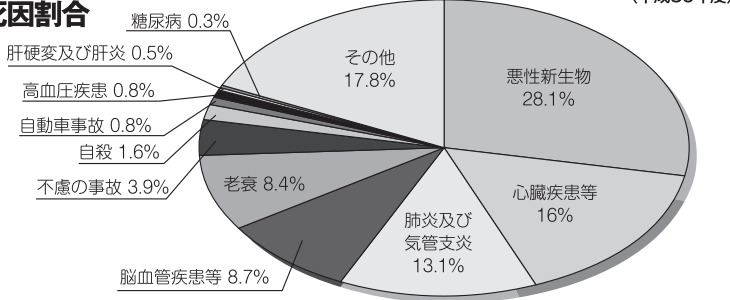
平成

元年(一九八九) 町制施行一〇〇周年事業を開催。
二年(一九九〇) 県立大磯城山公園開園。
ごみ処理施設完成。
下水道整備に着手。
三年(一九九一) 町史編さんを開始。
四年(一九九二) 町立国府小学校新校舎が完成。オーブンスペース方式を取り入れる。
七年(一九九五) 照ヶ崎プールが新装オープン。
長野県小諸市と災害時相互支援協定を締結。
八年(一九九六) 大磯町海岸自動車等乗入れ禁止条例を施行。
西部地区防災施設が完成。
旧島崎藤村邸を一般公開。
九年(一九九七) 町道幹一六号線城山トンネル開通。
町立国府小学校体育館が現在地に完成。
ダイオキシン対策、ごみの分別収集開始。
十年(一九九八) かながわゆめ・国体(ゴルフ・綱引)開催。
町の花「はまひるがお」に決定。
十一年(一九九九) 岩田記念室内競技場が完成。
生涯学習館がオープン。
十二年(二〇〇〇) 町立大磯小学校が改装。
高麗・東町・大磯地区の一部地域で下水道供用開始。
十三年(二〇〇一) 大磯運動公園一部開園(テニスコートオープン)。
十四年(二〇〇二) 東海道シンボジウム大磯宿大会を開催。
十五年(二〇〇三) 横溝千鶴子記念障害福祉センター完成。
大磯町運動公園野球場が完成。
大磯町高麗と平塚市桜ヶ丘を結ぶ、高麗大橋開通。
県と共同で大磯こゆるぎ緑地(〇.一七ha)を購入。

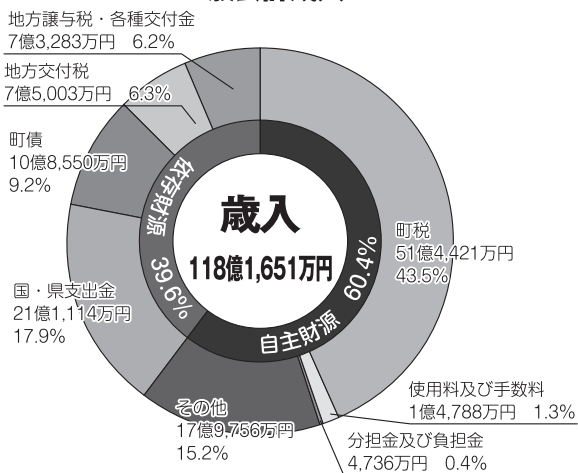
医療施設 (令和元年度)

病院 1か所
 一般診療所 18か所
 歯科診療所 16か所

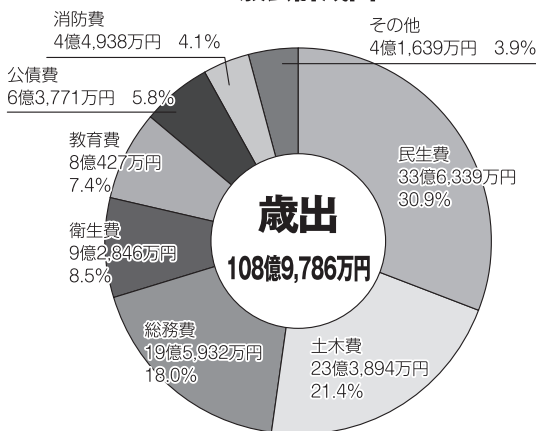
主要死因割合



一般会計歳入

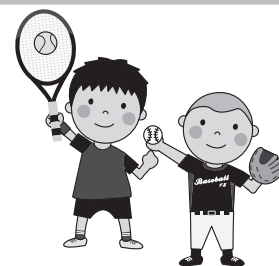


一般会計歳出



大磯運動公園利用状況 (令和元年)

テニスコート 33,263人
 野球場 33,808人
 多目的グラウンド 60,249人



旧野村研修所跡地(旧マリア聖堂)を購入。十六年(二〇〇四)大磯運動公園多目的広場が完成全面オープン。
 大磯町・国府町合併五〇周年事業を開催。
 十七年(二〇〇五)岐阜県中津川市・長野県小諸市との間で姉妹都市盟約、災害時相互応援協定を締結。
 旧野村研修所跡地の名称を「万台こゆるぎの森」とする。
 十八年(二〇〇六)大磯駅バリアフリー化事業開始。
 旧吉田茂郎を県立都市公園として整備する方針が決定。
 十九年(二〇〇七)松本順没後一〇〇周年記念事業を開催。
 旧吉田茂郎シンポジウムを開催。
 二十年(二〇〇八)に鳴立庵の茅葺屋根葺き替え工事が行われる。
 二十年(二〇〇八)大磯駅バリアフリー化工事完成。大磯運動公園、福祉センターさざれ石で指定管理者運営開始。
 二十一年(二〇〇九)旧吉田茂郎が火災により焼失。伊藤博文没後一〇〇周年記念展を開催。
 電気自動車を公用車に導入。併せて、電気自動車用急速充電器を敷地内に設置。
 二十二年(二〇一〇)町立月京幼稚園が移転し、町立たかとり幼稚園開園。
 横溝千鶴子記念子育て支援総合センター完成。
 町の鳥「アオバト」に決定。
 二十三年(二〇一一)大磯町自治基本条例を制定・施行。
 二十四年(二〇一二)東海大学との包括的な提携に関する協定を締結。
 大磯町美しいまちづくり条例を制定・施行。
 旧木下家別邸(大磯駅前洋館)が国登録有形文化財(建造物)に登録。
 町立国府小学校に学校プールが完成。
 二十五年(二〇一三)一市二町ごみ処理広域化開始。神奈川大学との包括的な提携に関する協定を締結。
 県立大磯城山公園「旧吉田茂郎地区」部分開園。
 二十六年(二〇一四)大磯町合併六〇周年記念事業を開催。
 大磯海水浴場開設一三〇年を迎える。

番号	指定年月日	種別	数量	名称	所在地	所有者等	指定年月日	指定記号番号
1	国指定	彫刻	1軀	木造薬師如来坐像	寺坂	王福寺	昭和2年4月25日	—
2			1軀	木造伝了源坐像	高麗	善福寺	平成4年6月22日	—
3		無形民俗文化財	—	大磯の左義長	大磯	大磯町左義長保存会	平成9年12月15日	—
4	県指定	史跡	1基	釜口古墳	大磯	大磯町	昭和29年3月30日	—
5			20基	楊谷寺谷戸横穴群	大磯	楊谷寺	昭和41年7月19日	—
6			9基	庄ヶ久保横穴群	国府本郷	個人	昭和41年7月19日	—
7			37基	たれこ谷戸西横穴群	虫窪	個人	昭和41年7月19日	—
8		天然記念物	—	大磯高麗山の自然林	高麗	高来神社	昭和47年3月31日	—
9			—	鷹取神社の社叢林	生沢	鷹取神社の社叢林保存会	平成4年2月14日	—
10			—	大磯照ヶ崎のアオバト集団飛来地	大磯	国	平成8年2月13日	—
11		無形民俗文化財	—	国府祭	国府本郷	国府祭保存会	昭和40年10月1日	—
12			—	西小磯の七夕行事	西小磯	西小磯東七夕保存会 西小磯西子ども育成会	平成20年2月5日	—
13		彫刻	1軀	木造地藏菩薩坐像	高麗	慶覚院	昭和49年7月12日	—
14			1軀	木造阿彌陀如来立像	高麗	善福寺	昭和57年8月31日	—
15			2軀	木造武装神形立像 木造女神形立像	国府本郷	六所神社	平成21年2月3日	—
16	町指定	有形文化財(古文書)	2通	地福寺文書2通	大磯	地福寺	昭和47年6月14日	1
17			1通	二宮家文書	—	個人	昭和48年7月20日	9
18			4鋪	紙本淡彩高麗寺村領地絵図	—	大磯町教育委員会	平成18年12月11日	40
19			946点	大磯宿小島本陣資料	—	大磯町教育委員会	平成27年3月25日	44
20		民俗資料(無形民俗文化財)	—	大磯御船祭	大磯	大磯御船祭保存会	昭和47年6月14日	6
21			—	高麗の山御輿	高麗	高麗山神輿保存会	平成元年10月18日	25
22			—	白岩神社祭礼	西小磯	白岩神社流鏝馬保存会	平成18年12月11日	41
23		史跡名勝天然記念物(史跡)	—	鴨立渚	大磯	大磯町	昭和58年7月1日	23
24		史跡名勝天然記念物(天然記念物)	1株	社宮神のタブ	国府新宿	個人	昭和47年6月14日	7
25			1株	宝積院のカヤ	国府新宿	宝積院	昭和47年6月14日	8
26			—	六所神社の樹林	国府本郷	六所神社	昭和48年7月20日	10
27			—	稲荷神社の樹林	東小磯	高来神社	昭和48年7月20日	13
28			1株	高来神社のシニッケイ	高麗	高来神社	昭和48年7月20日	14
29			1株	高麗ホルトノキ	高麗	法人	平成元年12月19日	26
30		有形文化財(彫刻)	1軀	千手観音立像	高麗	慶覚院	昭和47年6月14日	2
31			1軀	木造阿彌陀如来坐像	大磯	大運寺	昭和51年7月17日	17
32			1軀	木造弘法大師坐像	大磯	地福寺	昭和51年7月17日	18
33			1軀	石造地藏菩薩立像	国府本郷	西長院	昭和51年7月17日	19
34			3軀	木造聖観世音菩薩及び二天立像	国府新宿	蓮花院	昭和52年4月1日	20
35			1軀	木造阿彌陀如来坐像	寺坂	迎接院	昭和52年12月15日	21
36			1軀	木造薬師如来立像	大磯	楊谷寺	昭和52年12月15日	22
37			2軀	木造仁王立像	高麗	慶覚院	平成11年10月22日	38
38			11軀	木造神像	高麗	高来神社	平成16年1月7日	39
39		有形文化財(工芸品)	1口	国府新宿梵鐘	国府新宿	国府新宿区有	昭和47年6月14日	4
40		有形文化財(考古資料)	17点	大磯町出土考古資料	—	大磯町教育委員会	昭和47年6月14日	5
41			3点	馬場台遺跡出土品	—	大磯町教育委員会	平成3年9月20日	27
42		有形文化財(建造物)	1棟	鴨立庵	大磯	大磯町	昭和58年7月1日	24
43			3棟	旧島崎藤村住宅-静の草屋-	東小磯	大磯町	平成6年12月21日	37
44			5棟	旧滄浪園(旧李家別邸-伊藤博文邸跡)5棟 附 敷地 1筆・杉戸給4枚	西小磯	国	平成20年11月21日	43
45			1棟	旧大隈重信別邸-旧古河別邸 1棟 附 敷地 2筆	東小磯	国	令和2年8月21日	45
46			1棟	旧古河別邸(陸奥宗光別邸跡)1棟 附 敷地 2筆	東小磯	国	令和2年8月21日	46
47			1棟	旧ホテル滄浪園 ホール棟 1棟	西小磯	国	令和2年12月18日	47
48	国登録	有形文化財(建造物)	1棟	旧木下家別邸	大磯	大磯町	平成24年2月23日	—
49			1棟	日本基督教団大磯教会礼拝堂	大磯	日本基督教団大磯教会	平成28年2月25日	—
50			1所	日本基督教団大磯教会門柱及び塀	大磯	日本基督教団大磯教会	平成28年2月25日	—
51			1棟	旧吉田茂邸サニールーム	国府本郷	神奈川県	平成31年3月29日	—
52			1棟	旧吉田茂邸七賢堂	国府本郷	神奈川県	平成31年3月29日	—
53			1所	旧吉田茂邸兜門	国府本郷	神奈川県	平成31年3月29日	—

二十七年(二〇一五)旧町営照ヶ崎プールを改修した「ポートハウスてらがさき」開設。
大磯町教育大綱を策定。
東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンに決定。(エリトリア国)
二十八年(二〇一六)郷土資料館リニューアルオープン。
二十九年(二〇一七)ノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典東京工業大学名誉教授に大磯町名誉町民の称号を贈呈。
旧吉田茂邸再建、公開。
大磯町・二宮町漁業協同組合が合併。
東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンに決定。(ブータン王国)
三十年(二〇一八)大磯町美化センターにリサイクルセンターが完成。
東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンに決定。(ミャンマー連邦共和国)
産業能率大学との包括的な提携に関する協定を締結。
明治一五〇年事業として「明治記念大磯邸園」の一部を記念公開。

令和
元年(二〇一九)石坂卷子記念子育て支援センター完成。
二年(二〇二〇)横溝千鶴子記念教育研究所完成。
「太平洋沿岸自転車道」大磯区間全線開通。
「明治記念大磯邸園」第1期開園。
大磯港賑わい交流施設(OISO CONNECT)完成。